

5. 琵琶湖の総合保全および森林づくり

(1) 琵琶湖の総合保全

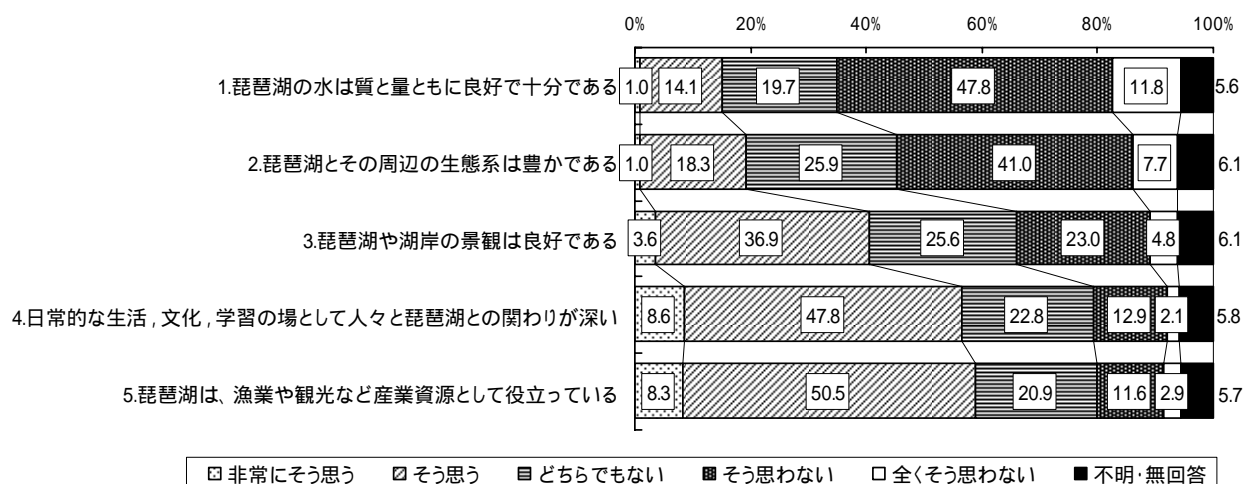
琵琶湖の現状

問 26 琵琶湖の現状に関して、1～5の項目について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（それぞれの項目について は1つずつ）

「琵琶湖は、漁業や観光など産業資源として役立っている」と思う人は58.8%。

琵琶湖の現状について、「琵琶湖は、漁業や観光など産業資源として役立っている」と『思う』（「非常にそう思う」、「そう思う」の合計）は58.8%、「日常的な生活、文化、学習の場として人々と琵琶湖との関わりが深い」と『思う』は56.4%となっており、『思わない』（「そう思わない」、「全くそう思わない」の合計）を大きく上回っている。

また、「琵琶湖の水は質と量ともに良好で十分である」と『思わない』は59.6%、『思う』は15.1%となっている。



【地域別】

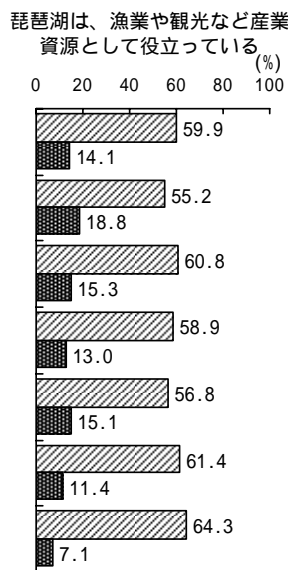
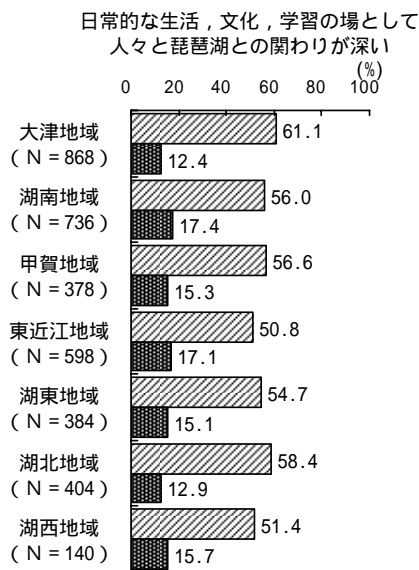
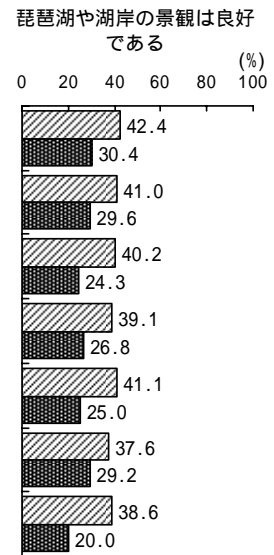
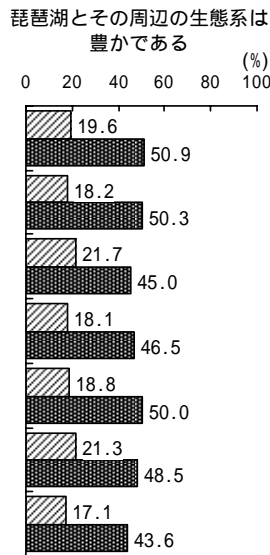
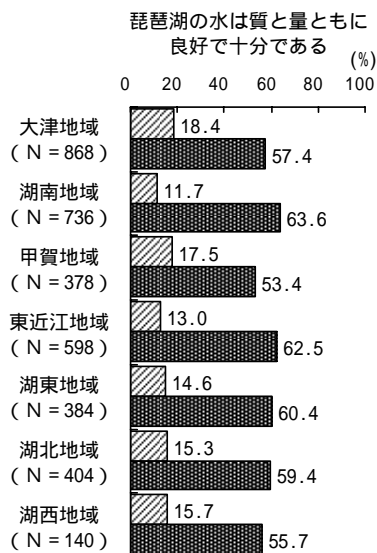
「琵琶湖の水は質と量ともに良好で十分である」と『思う』は大津地域で18.4%と最も高く、『思わない』は湖南地域で63.6%と最も高くなっている。

「琵琶湖とその周辺の生態系は豊かである」と『思う』は甲賀地域で21.7%と最も高く、『思わない』は大津地域で50.9%と最も高くなっている。

「琵琶湖や湖岸の景観は良好である」と『思う』は大津地域で42.4%と最も高いと同時に、『思わない』も大津地域が30.4%と最も高くなっている。

「日常的な生活、文化、学習の場として人々と琵琶湖との関わりが深い」と『思う』はいずれの地域でも5割を超えているが、特に大津地域で61.1%と高くなっている。

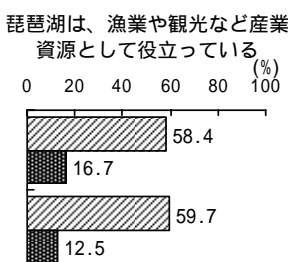
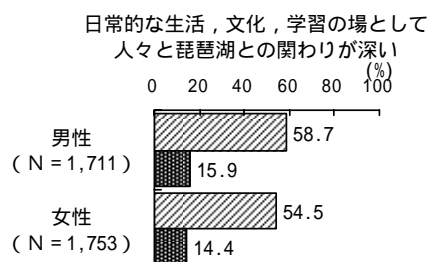
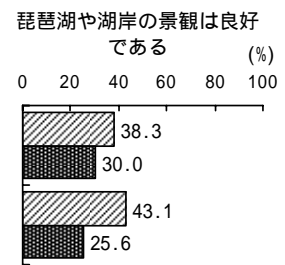
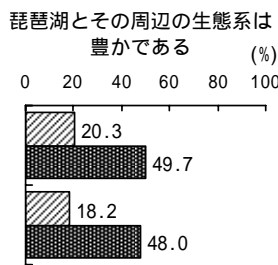
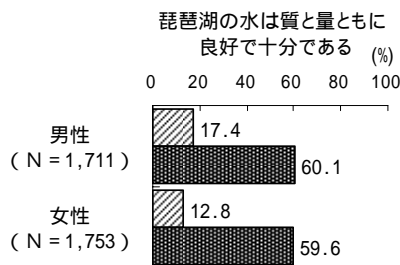
「琵琶湖は、漁業や観光など産業資源として役立っている」と『思う』はいずれの地域でも5割を超えており、湖西地域で64.3%と最も高くなっている。



▨ 思う（「非常にそう思う」、「そう思う」の合計）
 ■ 思わない（「そう思わない」、「全くそう思わない」の合計）

【性別】

「琵琶湖や湖岸の景観は良好である」と『思う』は男性 38.3%、女性 43.1%と女性のほうが高くなっている。「日常生活、文化、学習の場として人々と琵琶湖との関わりが深い」と『思う』は、男性 58.7%、女性 54.5%で男性のほうが高くなっている。「琵琶湖は、漁業や観光など産業資源として役立っている」と『思う』が男女とも 55.0%を超えている。



▨ 思う（「非常にそう思う」、「そう思う」の合計）
 ■ 思わない（「そう思わない」、「全くそう思わない」の合計）

【性・年代別】

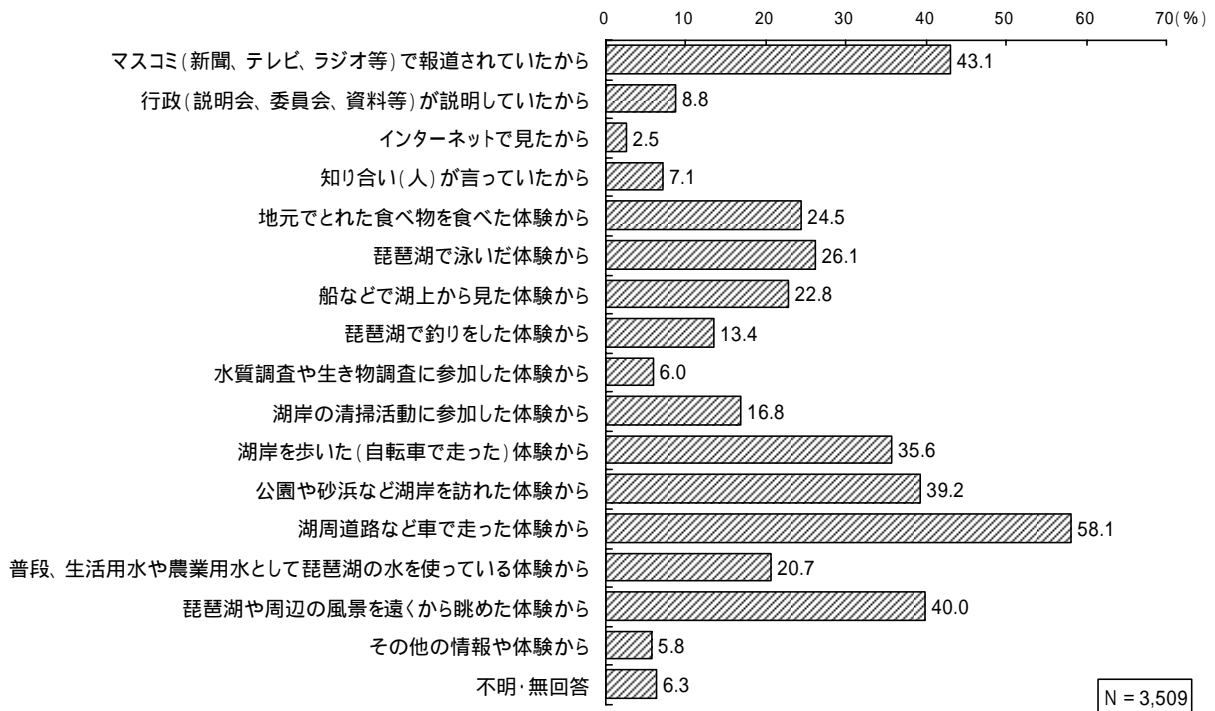
男性の20～30歳代では「日常的な生活、文化、学習の場として人々と琵琶湖との関わりが深い」が、男性の70歳以上と女性の20歳代と40歳以上では「琵琶湖は、漁業や観光など産業資源として役立っている」が、男性の60歳代と女性の30歳代では先に述べた2つの項目の『思う』が同率で、最も高くなっている。

琵琶湖の現状についての判断源

問27 問26の各項目(1～5)についてそのように思われた理由をお選びください。(は5つまで)

「湖周道路など車で走った体験から」が58.1%

琵琶湖の現状についての情報源をみると、「湖周道路など車で走った体験から」が58.1%で最も高く、次いで、「マスコミ(新聞、テレビ、ラジオ等)で報道されていたから」(43.1%)、「琵琶湖や周辺の風景を遠くから眺めた体験から」(40.0%)の順となっている。

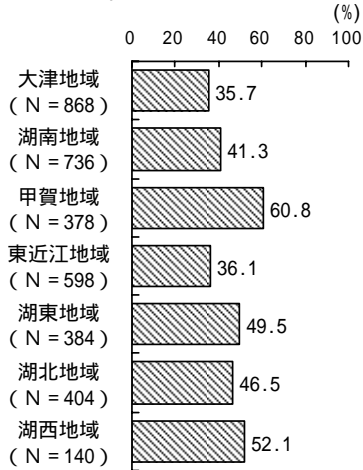


【地域別】

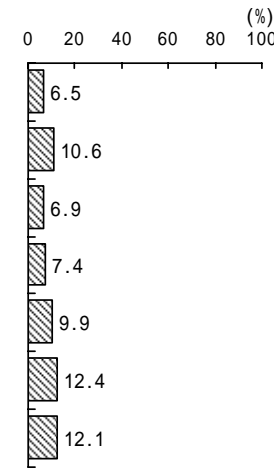
すべての地域で「湖周道路など車で走った体験から」が最も高いが、甲賀地域では同率で「マスコミで報道されていたから」が高くなっている。

「湖岸を歩いた(自転車で走った)体験から」は大津地域で53.0%と高くなっており、「琵琶湖で泳いだ体験から」と「湖岸の清掃活動に参加した体験から」は湖西地域でそれぞれ34.3%、32.1%と他の地域に比べ高くなっている。「地元でとれた食べ物を食べた体験から」は湖東・湖北・湖西地域で高くなっている。

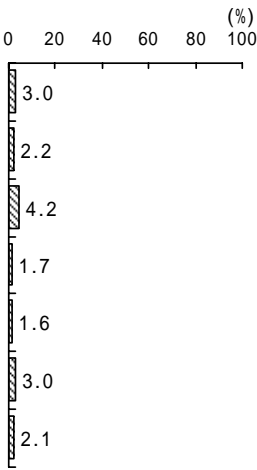
マスコミ（新聞、テレビ、ラジオ等）で報道されていたから



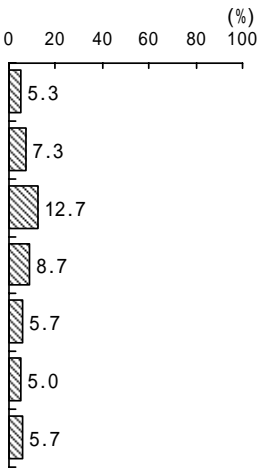
行政（説明会、委員会、資料等）が説明していたから



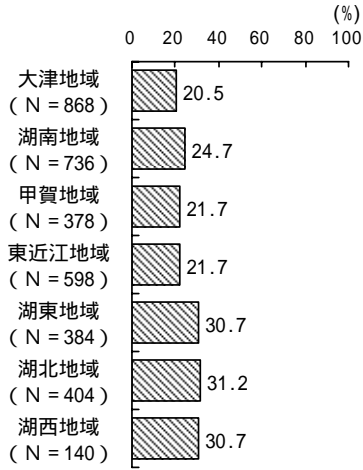
インターネットで見たから



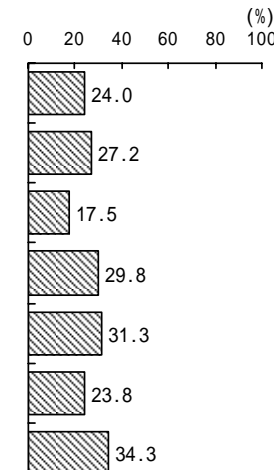
知り合い（人）が言っていたから



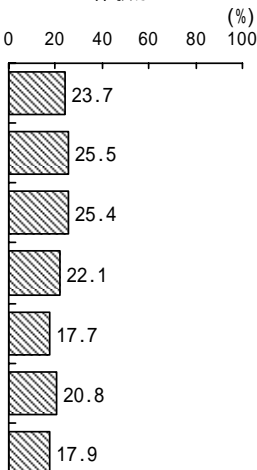
地元でとれた食べ物を食べた体験から



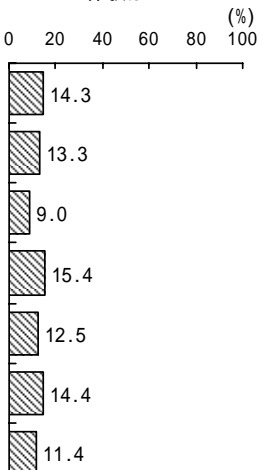
琵琶湖で泳いだ体験から



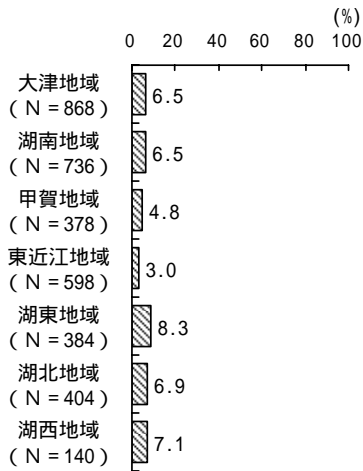
船などで湖上から見た体験から



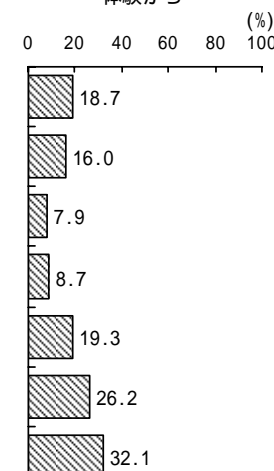
琵琶湖で釣りをした体験から



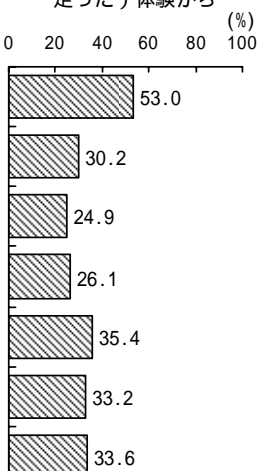
水質調査や生き物調査に参加した体験から



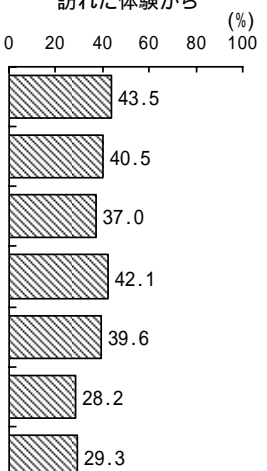
湖岸の清掃活動に参加した体験から

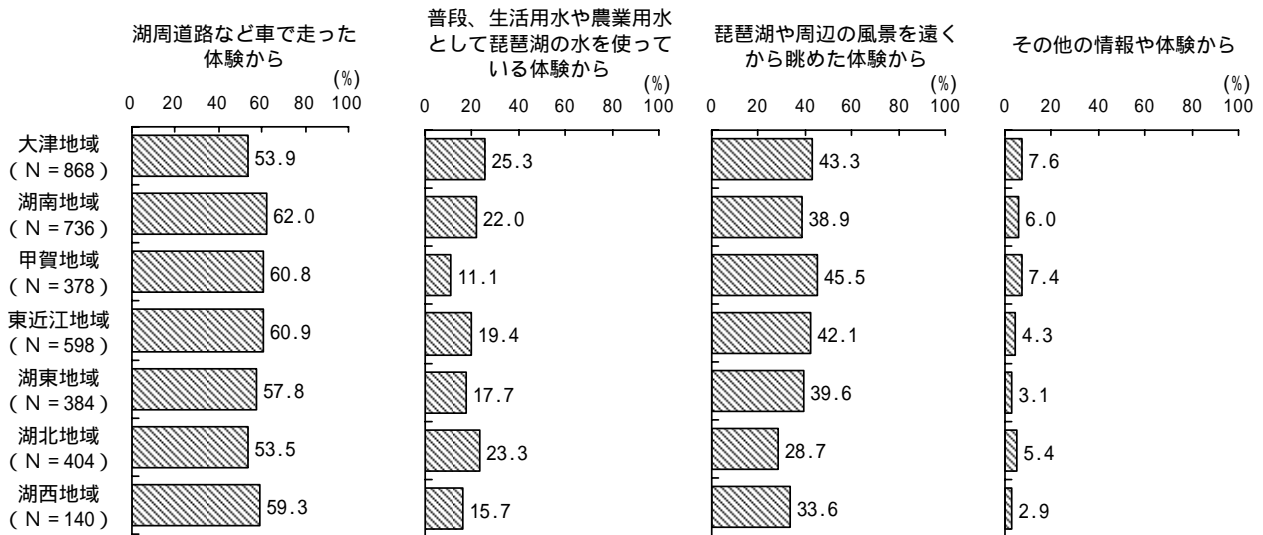


湖岸を歩いた（自転車で行った）体験から



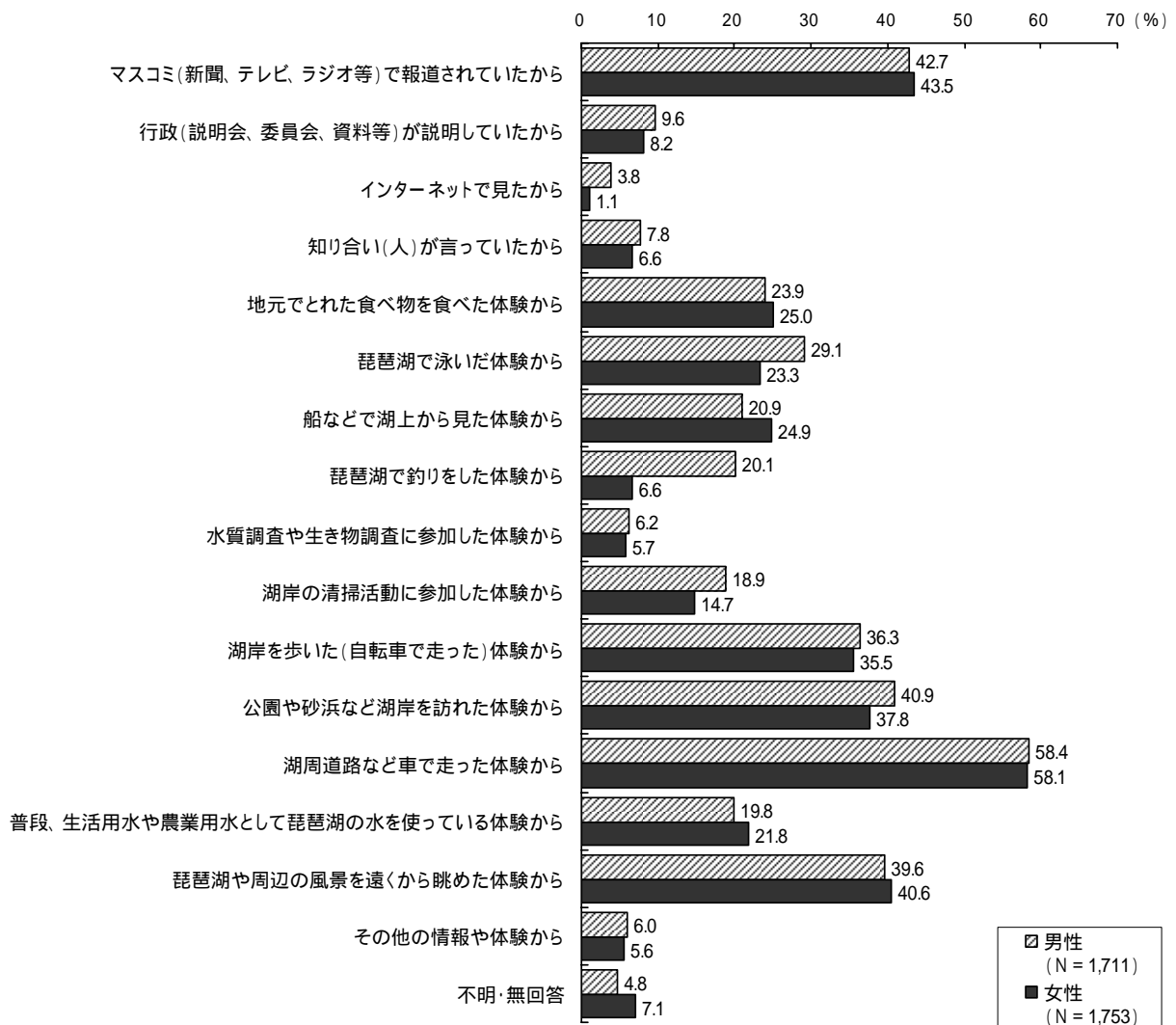
公園や砂浜など湖岸を訪れた体験から





【性別】

男女とも「湖周道路など車で走った体験から」が最も高く、5割を超えている。「琵琶湖で釣りをした体験から」は男性20.1%、女性6.6%で男性のほうが13.5ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男性の70歳代では「マスコミ（新聞、テレビ、ラジオ等）で報道されていたから」が、男女ともにその他の年代では「湖周道路など車で走った体験から」が最も高く、5割を超えている。

「地元でとれた食べ物を食べた体験から」は男女とも50歳以上で、「琵琶湖で泳いだ体験から」は男女とも20～40歳代で高くなっている。

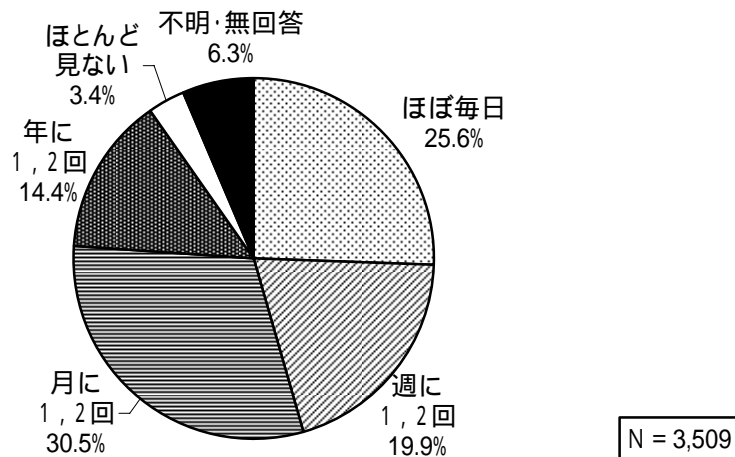
琵琶湖との関わり方

問 28 あなたと琵琶湖の関わりについて、1～4の項目について、あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（それぞれの項目については1つずつ）

1) どのくらいの頻度で琵琶湖を見ますか

「月に1, 2回」が最も高く30.5%

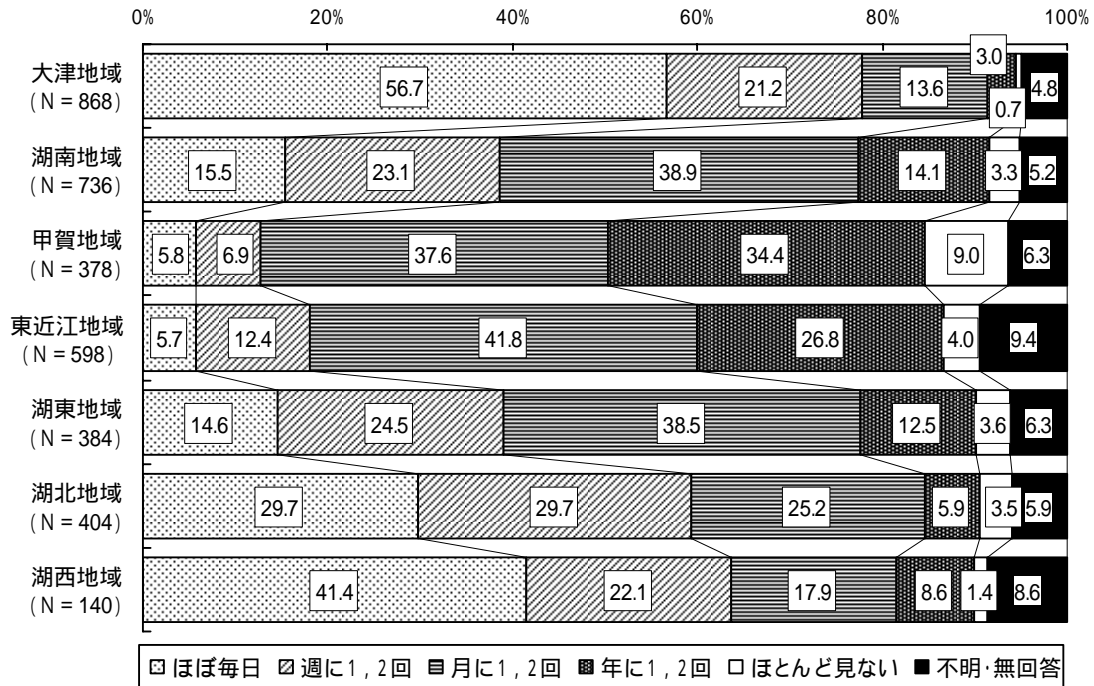
「月に1, 2回」が最も高く30.5%となっており、次いで「ほぼ毎日」(25.6%)、「週に1, 2回」(19.9%)の順となっている。「ほとんど見ない」は3.4%であった。



【地域別】

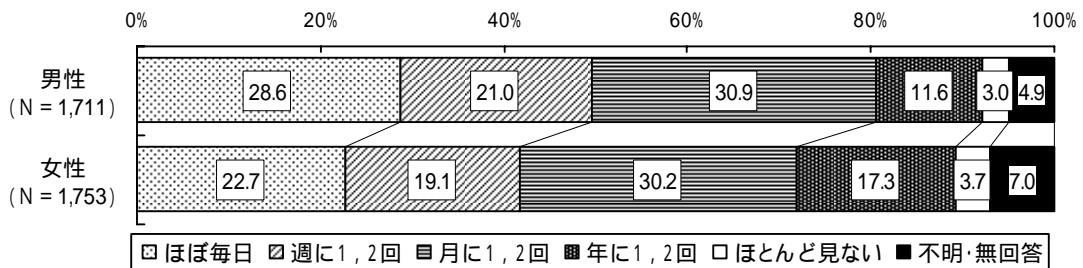
大津地域では「ほぼ毎日」が56.7%と5割を超え、湖北地域では「ほぼ毎日」と「週に1, 2回」が29.7%と同率、その他の地域では「月に1, 2回」が最も高くなっている。

琵琶湖に面していない甲賀地域では日常的に見る割合（「ほぼ毎日」と「週に1, 2回」の合計）が低くなっている。



【性別】

男女とも「月に1, 2回」が最も高い。男性では「ほぼ毎日」が女性より5.9ポイント高くなっている。



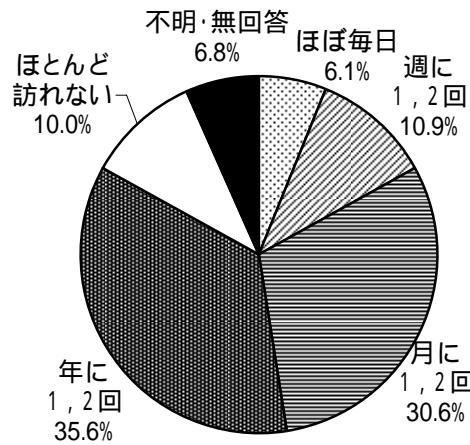
【性・年代別】

男性の20歳代と40歳代、女性の20歳代では「ほぼ毎日」が最も高く、男女ともにその他の年代では「月に1, 2回」が最も高くなっている。女性では「ほぼ毎日」で年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

2) どのくらいの頻度で琵琶湖を訪れますか(湖岸公園・湖水浴などの利用を含む)

「年に1, 2回」が最も高く35.6%

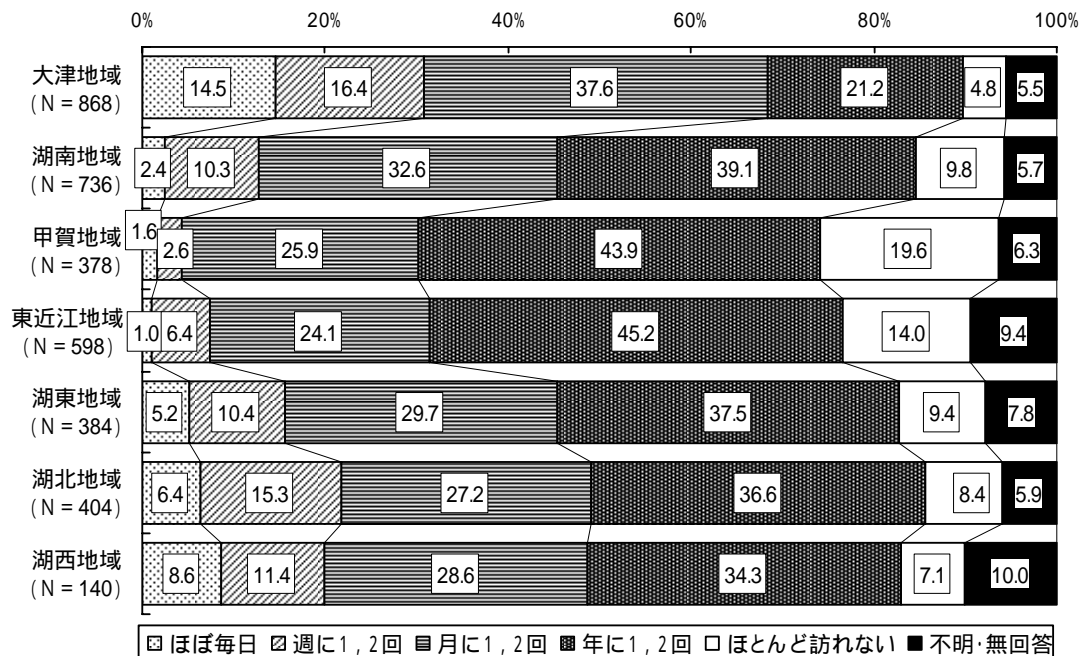
「年に1, 2回」が最も高く35.6%となっており、次いで「月に1, 2回」(30.6%)、「週に1, 2回」(10.9%)の順となっている。「ほとんど訪れない」は10.0%であった。



N = 3,509

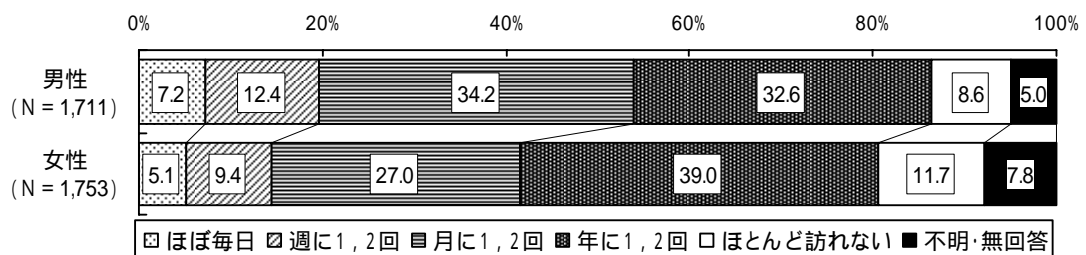
【地域別】

大津地域では「月に1, 2回」が、その他の地域では「年に1, 2回」が最も高くなっている。「ほぼ毎日」は大津地域が14.5%と他の地域に比べて高く、琵琶湖に面していない甲賀地域では日常的に訪れる割合（「ほぼ毎日」と「週に1, 2回」の合計）が低くなっている。



【性別】

男性は「月に1, 2回」が、女性は「年に1, 2回」が最も高く、「月に1, 2回」以上訪れる割合は男性のほうが7.2ポイント高くなっている。



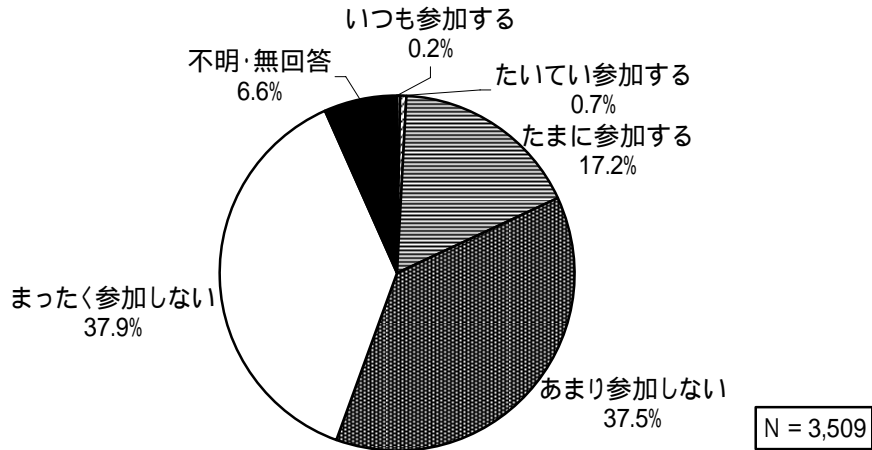
【性・年代別】

男性の40歳代と70歳以上、女性のすべての世代では「年に1, 2回」が最も高く、男性のその他の世代では「月に1, 2回」が最も高くなっている。日常的に訪れる割合は、男女とも50歳代で最も高くなっている。

3) どのくらいの頻度で琵琶湖に関する催し物に参加していますか

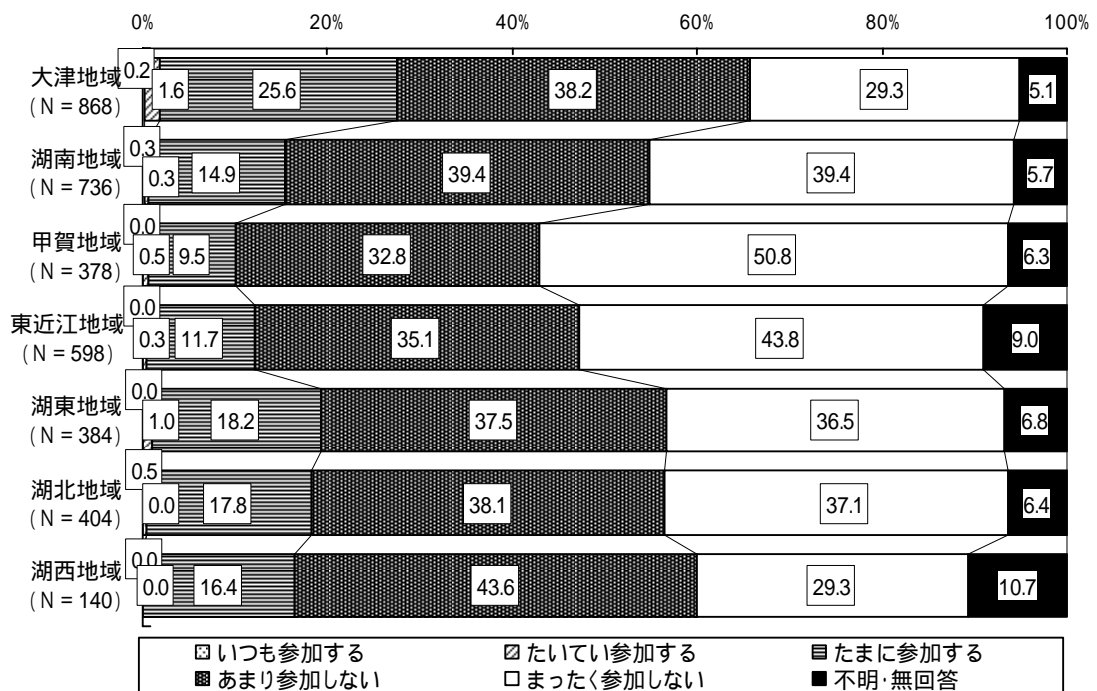
「まったく参加しない」が最も高く 37.9%

「まったく参加しない」が最も高く 37.9%となっており、次いで「あまり参加しない」(37.5%)、「たまに参加する」(17.2%)の順となっている。



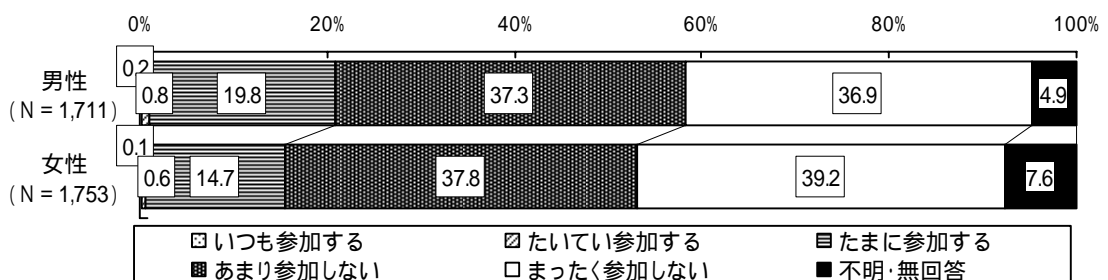
【地域別】

甲賀・東近江地域では「まったく参加しない」が、湖南地域では「あまり参加しない」と「まったく参加しない」が同率、その他の地域では「あまり参加しない」が最も高くなっている。



【性別】

男性では「あまり参加しない」が、女性では「まったく参加しない」が最も高くなっている。



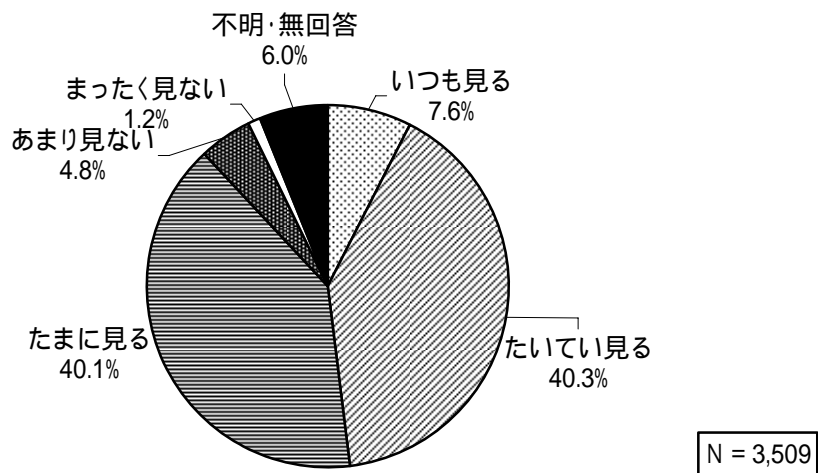
【性・年代別】

男性の50歳代と70歳以上、女性の40歳以上では「あまり参加しない」が、男女ともにその他の年代では「まったく参加しない」が最も高くなっている。

4) 新聞やテレビなどで琵琶湖に関するニュースがあった時、あなたはどのように

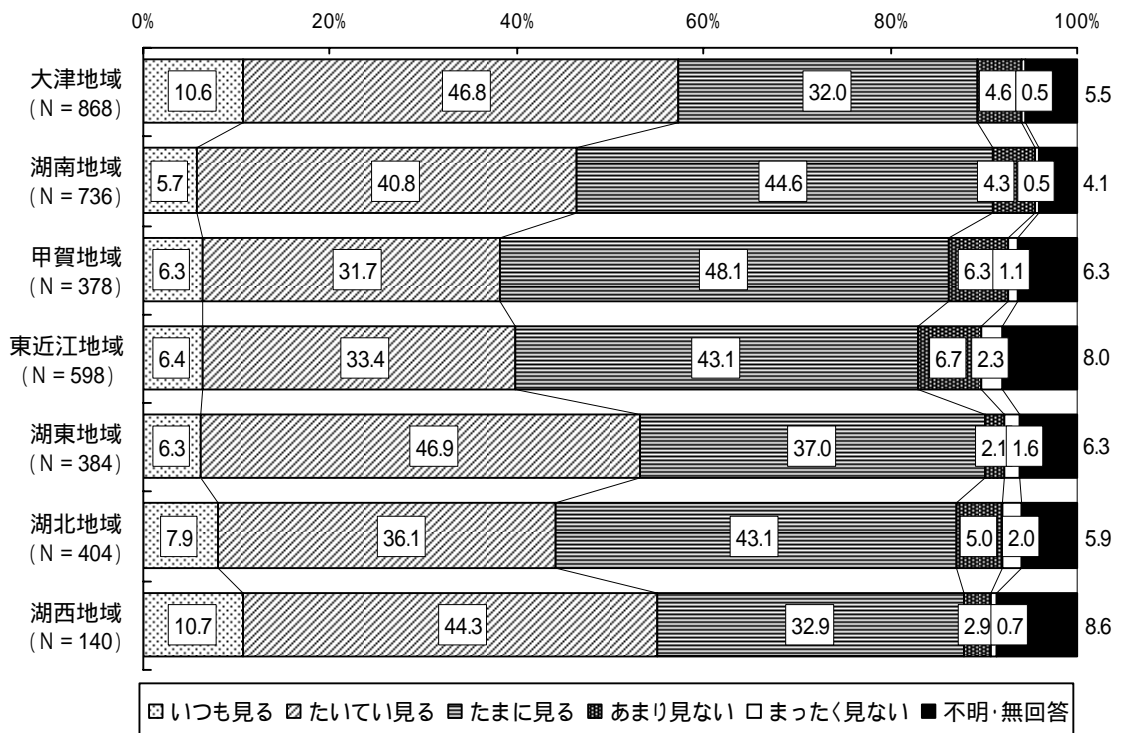
「たいてい見る」が最も高く40.3%

「たいてい見る」が最も高く40.3%となっており、次いで「たまに見る」(40.1%)、「いつも見る」(7.6%)の順となっている。



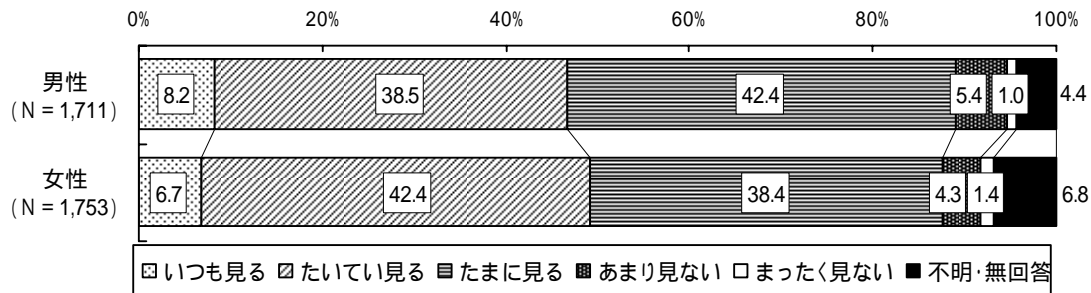
【地域別】

大津・湖東・湖西地域では「たいてい見る」が、その他の地域では「たまに見る」が最も高くなっている。「いつも見る」は湖西地域(10.7%)と大津地域(10.6%)で高くなっている。



【性別】

男性では「たまに見る」が最も高く、女性では「たいてい見る」が最も高くなっている。



【性・年代別】

男性の60歳以上、女性の40歳以上では「たいてい見る」が、男女ともにその他の年代では「たまに見る」が最も高くなっている。「いつも見る」の割合は、男女とも70歳以上で最も高く、男性14.3%、女性10.8%となっている。

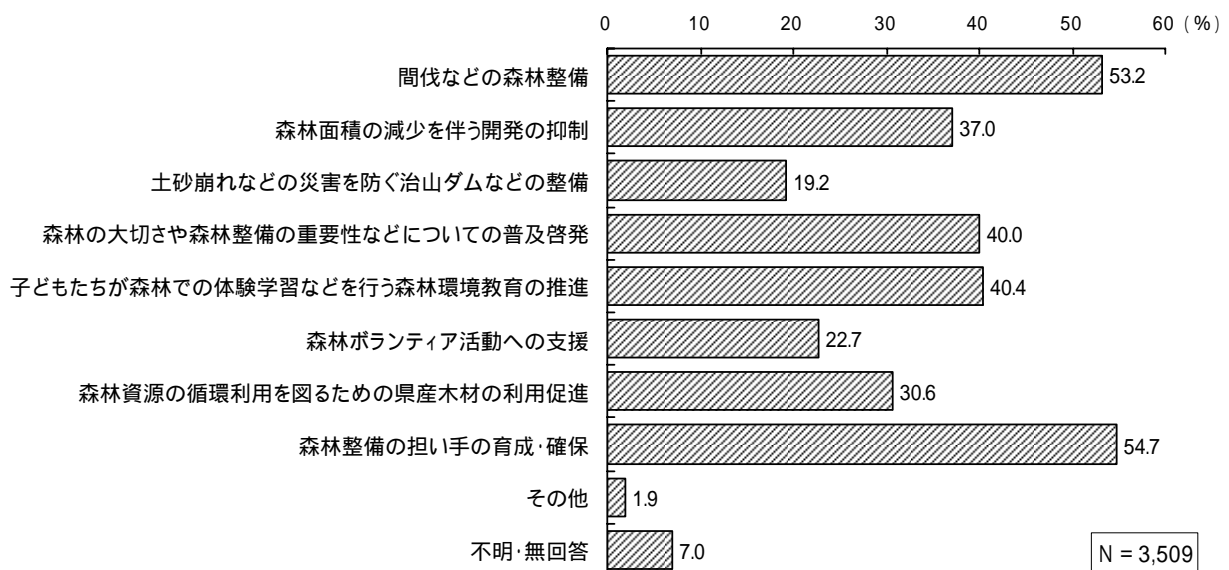
(2) 森林づくり

森林・林業行政への要望や必要な取組

問 29 滋賀県の森林を守り未来へ引き継ぐため森林・林業行政に望むことや必要だと思う取り組みはどのようなことですか。(は4つまで)

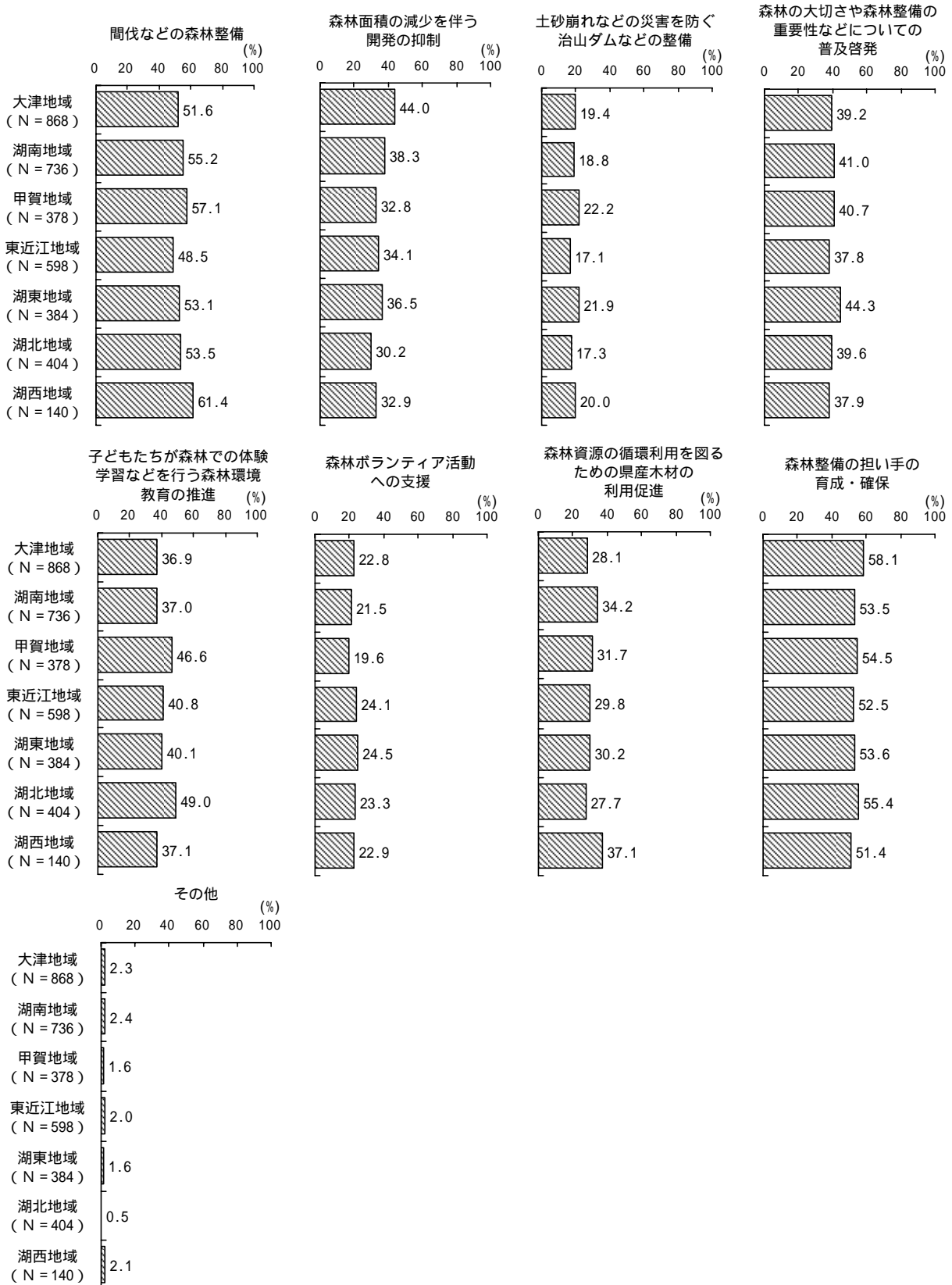
「森林整備の担い手の育成・確保」が最も高く54.7%、「間伐などの森林整備」(53.2%)が続く

「森林整備の担い手の育成・確保」が最も高く54.7%、次いで「間伐などの森林整備」(53.2%)の順となっており、どちらも5割を超えている。また、「森林面積の減少を伴う開発の抑制」が37.0%となっている。



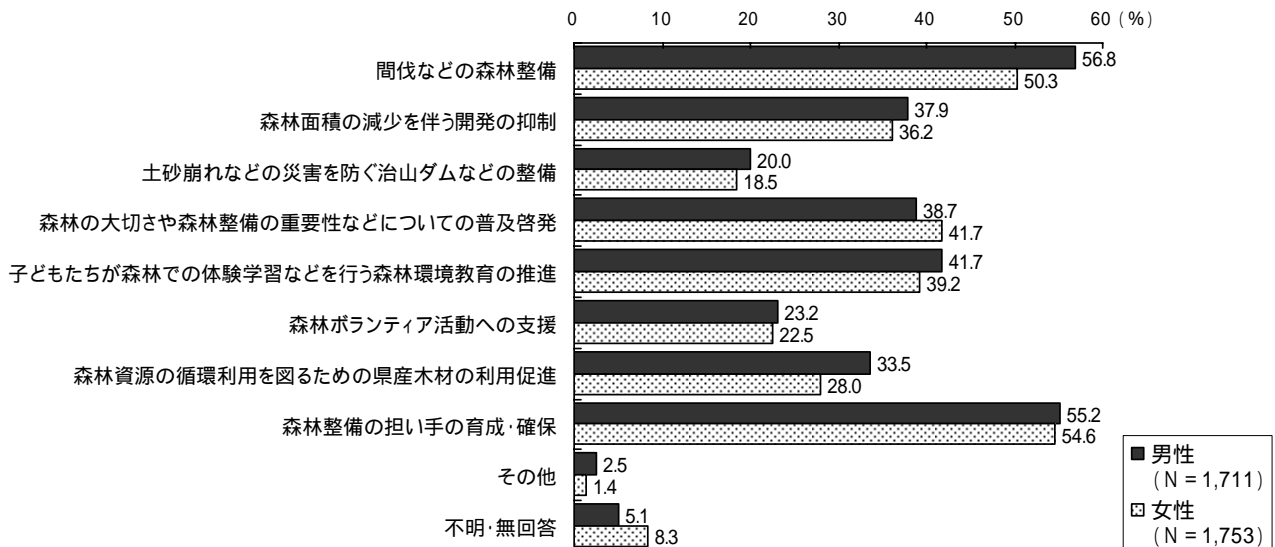
【地域別】

湖南・甲賀・湖西地域では、「間伐などの森林整備」が、その他の地域では「森林整備の担い手の育成・確保」が最も高くなっている。「森林面積の減少を伴う開発の抑制」では大津地域（44.0%）が、「森林の大切さや森林整備の重要性などについての普及啓発」では湖東地域（44.3%）が、「森林資源の循環利用を図るための県産木材の利用促進」では湖西地域（37.1%）が最も高くなっている。



【性別】

男性では「間伐などの森林整備」が56.8%と最も高く、女性では「森林整備の担い手の育成・確保」が55.2%と最も高くなっている。



【性・年代別】

男性の30歳代と50歳以上、女性の70歳以上では「間伐などの森林整備」が、女性の20歳代では、「子どもたちが森林での体験学習などを行う森林環境教育の推進」が、女性の60歳代では「間伐などの森林整備」と「森林整備の担い手の育成・確保」が同率で、男女ともにその他の年代では「森林整備の担い手の育成・確保」が最も高くなっている。

「間伐などの森林整備」は男女とも60歳代が最も高くなっており、「森林ボランティア活動への支援」では男女とも20歳代が最も高くなっている。また、「森林の大切さや森林整備の重要性などについての普及啓発」では、男女とも50歳以上で4割を超えている。

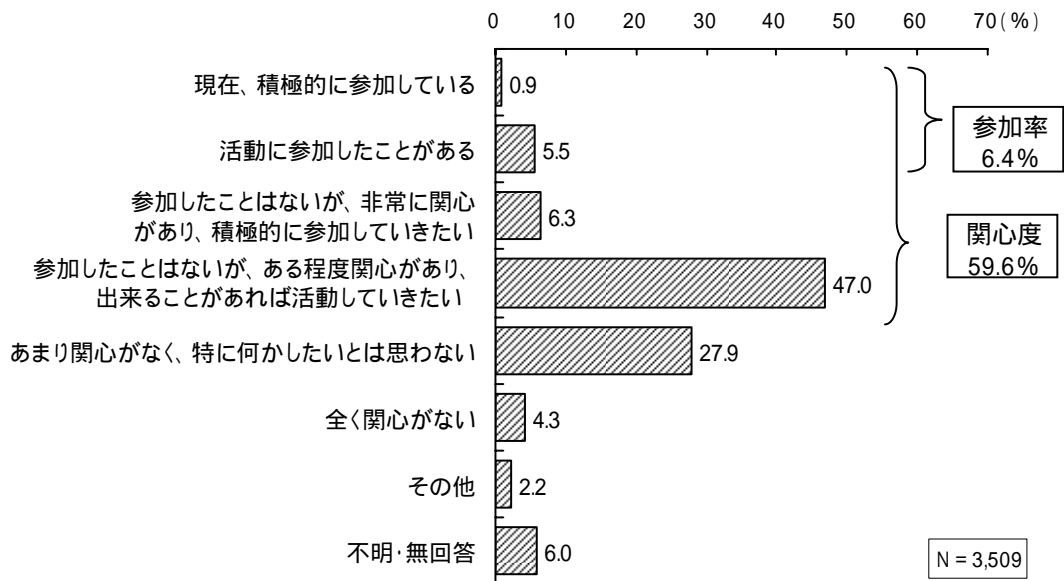
森林づくり活動への参加または関心

問 30 あなたは、森林づくり活動にどのくらい参加または関心をお持ちですか。(は1つだけ)

参加率は6.4%、関心度は59.6%

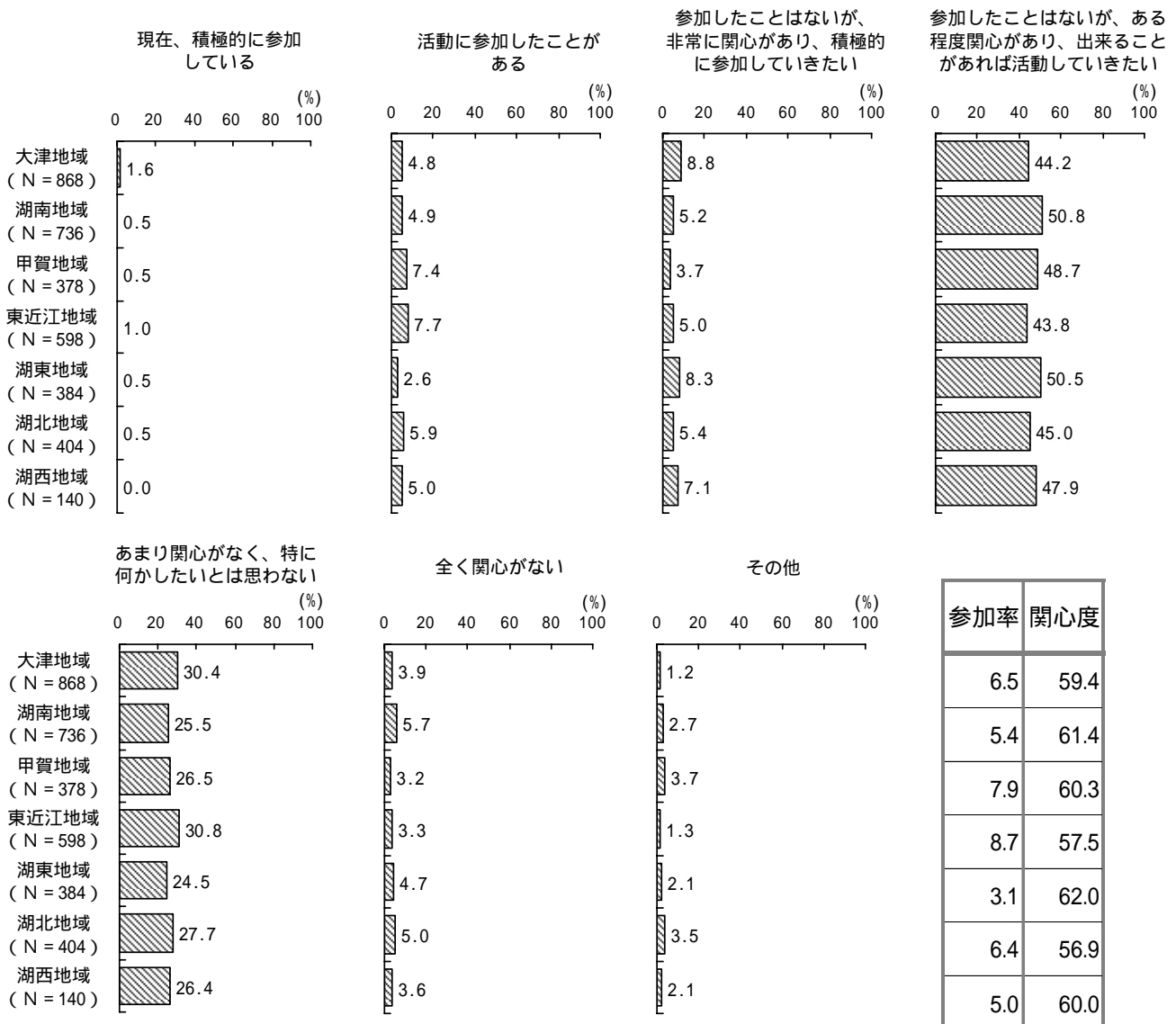
「参加したことはないが、ある程度関心があり、出来ることがあれば活動していきたい」が最も高く47.0%で、次いで「あまり関心がなく、特に何かしたいとは思わない」(27.9%)となっている。

『参加率』(「現在、積極的に参加している」と「活動に参加したことがある」の合計)は6.4%で、『関心度』(『参加率』に「参加したことはないが、非常に関心があり、積極的に参加していきたい」と「参加したことはないが、ある程度関心があり、出来ることがあれば活動していきたい」を加えたもの)は59.6%で、6割近くとなっている。



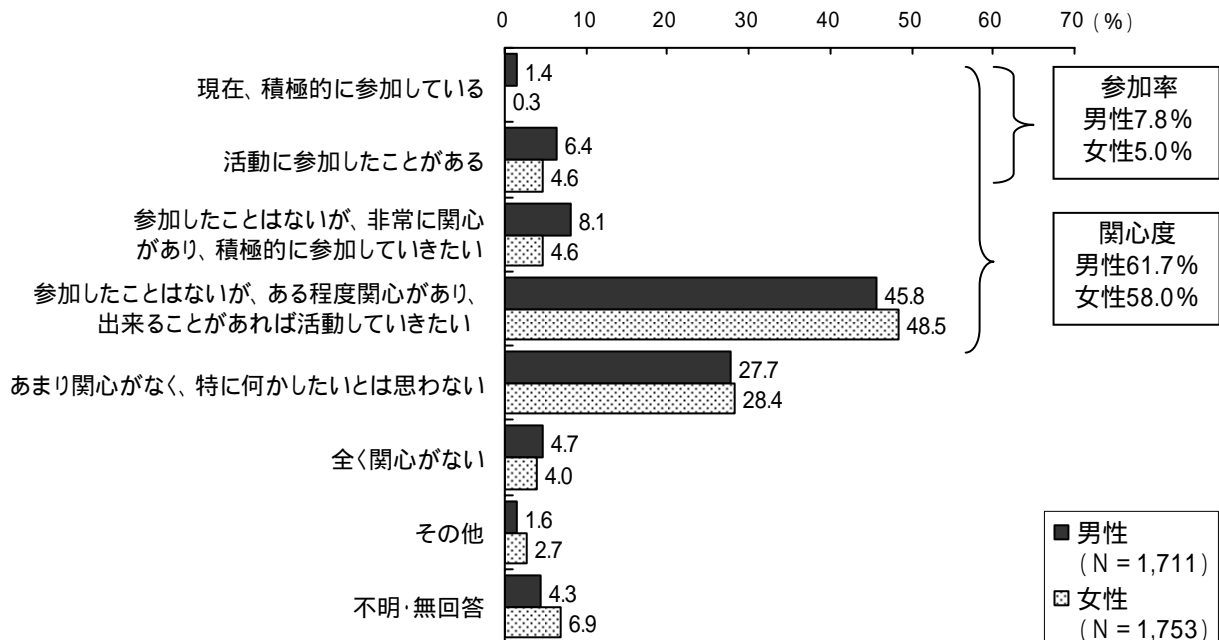
【地域別】

すべての地域で、「参加したことはないが、ある程度関心があり、出来ることがあれば活動していきたい」が最も高く、『参加率』は東近江地域の8.7%、『関心度』は湖東地域の62.0%が最も高くなっている。



【性別】

男女とも「参加したことはないが、ある程度関心があり、出来ることがあれば活動していきたい」が最も高く、次いで「あまり関心がなく、特に何かしたいとは思わない」の順となっている。『参加率』『関心度』とも男性のほうが高くなっている。



【性・年代別】

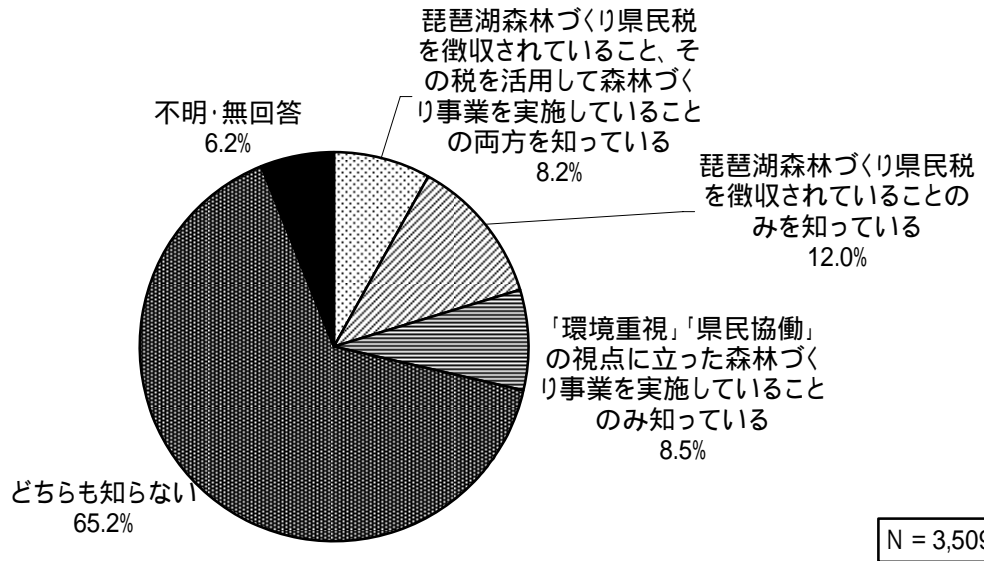
男女ともすべての年代で「参加したことはないが、ある程度関心があり、出来ることがあれば活動していきたい」が最も高く、男性では60歳代の50.2%、女性では20歳代と50歳代が52.5%の同率で最も高くなっている。『参加率』『関心度』ともに最も高いのは、男性の60歳代でそれぞれ、9.9%、67.1%となっている。

琵琶湖森林づくり県民税による「県民協働」の視点に立った森林づくり事業

問 31 滋賀県では、平成 18 年度から、県民の皆様から琵琶湖森林づくり県民税をいただき、「環境重視」と「県民協働」の視点に立った森林づくり事業に乗り組んでいます。このことについて、あなたは、どの程度ご存じですか。(は 1 つだけ)

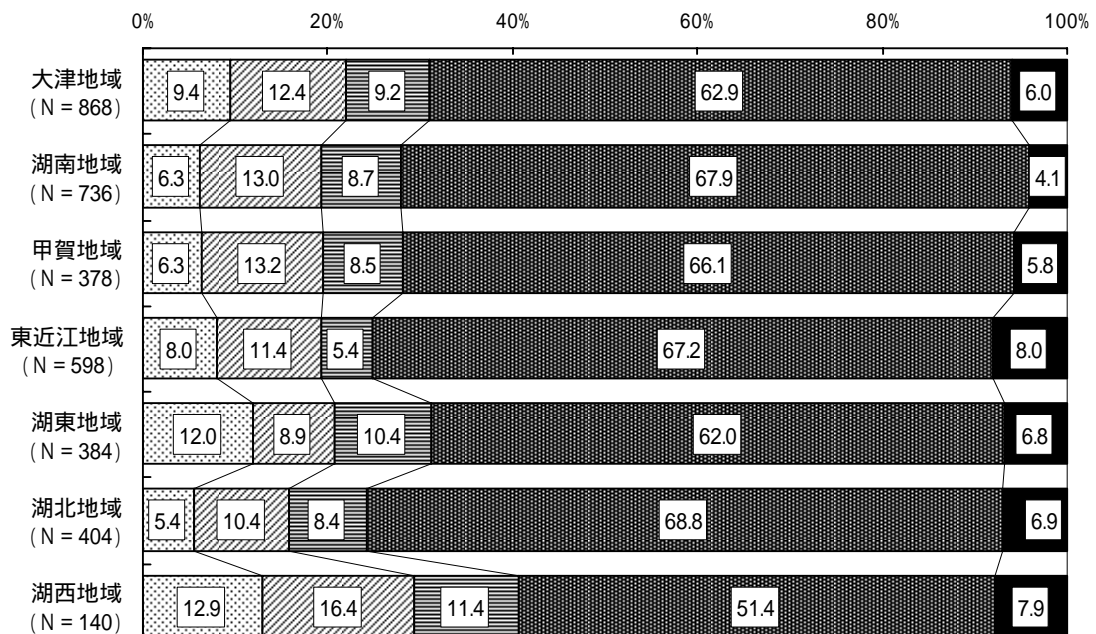
『琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることを知っている』のは 20.2%

「どちらも知らない」が 65.2%で最も高い。『琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることを知っている』(「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」と「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみを知っている」の合計)は 20.2%となっている。



【地域別】

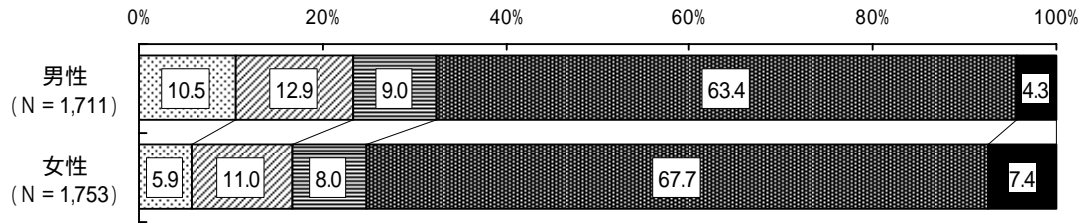
すべての地域で「どちらも知らない」が最も高い。「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」は湖東・湖西地域で割合が高くなっている。



- 琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている
- ▨ 琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみを知っている
- ▤ 「環境重視」「県民協働」の視点に立った森林づくり事業を実施していることのみ知っている
- どちらも知らない
- 不明・無回答

【性別】

「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」では男性のほうが4.6ポイント高くなっている。



- ☑ 琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている
- ☒ 琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていることのみ知っている
- ☐ 「環境重視」「県民協働」の視点に立った森林づくり事業を実施していることのみ知っている
- どちらも知らない
- 不明・無回答

【性・年代別】

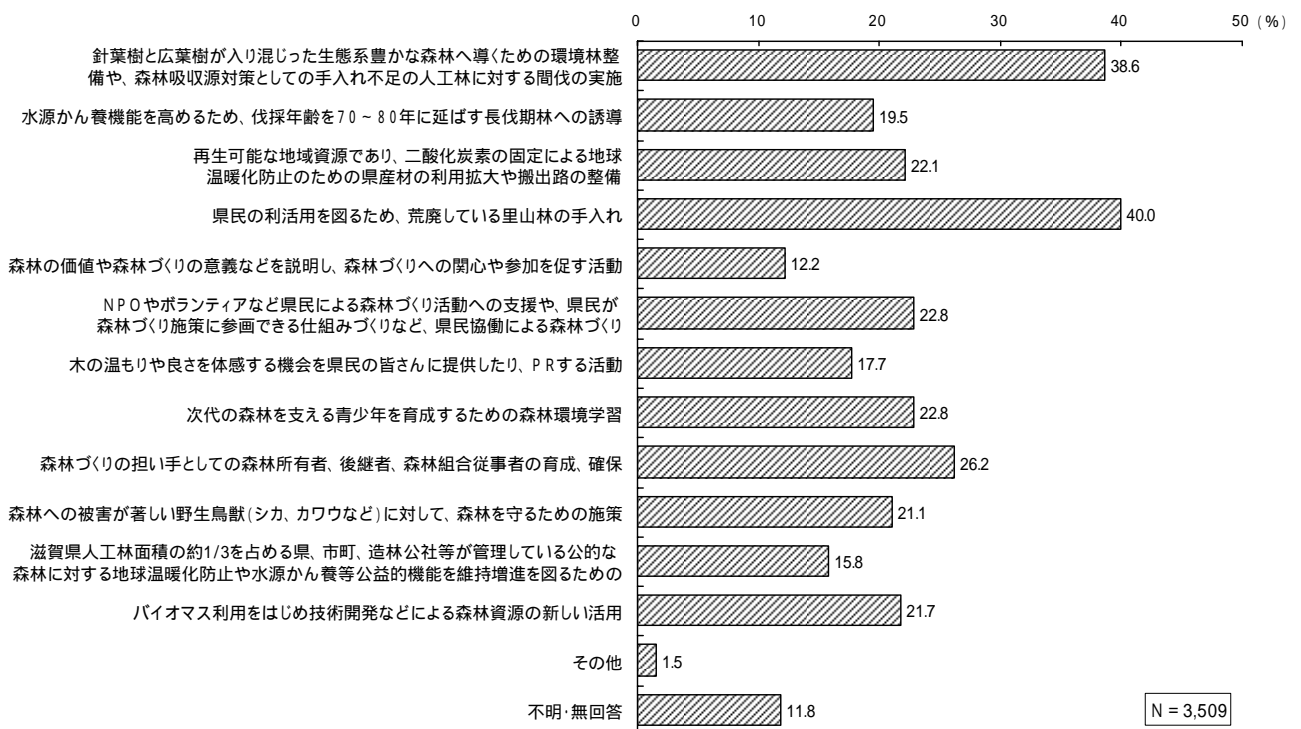
男女ともすべての年代で「どちらも知らない」が最も高くなっている。男性の40歳以上では、「琵琶湖森林づくり県民税を徴収されていること、その税を活用して森林づくり事業を実施していることの両方を知っている」の割合が高くなっている。

琵琶湖森林づくり県民税の望ましい使い道

問 32 琵琶湖森林づくり県民税の使い道として、特にどのような森林づくりの分野に充てるのが望ましいとお考えですか。（ は4つまで）

「県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ」が最も高く40.0%

「県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ」が最も高く40.0%、次いで「針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな森林へ導くための環境林整備や、森林吸収源対策としての手入れ不足の人工林に対する間伐の実施」(38.6%)、「森林づくりの担い手としての森林所有者、後継者、森林組合従事者の育成、確保」(26.2%)の順となっている。



【地域別】

大津・湖北・湖西地域では「針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな森林へ導くための環境林整備や、森林吸収源対策としての手入れ不足の人工林に対する間伐の実施」が最も高く、特に湖西地域で 47.9%と高くなっている。その他の地域では「県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ」が最も高く、特に甲賀地域で 48.7%と高くなっている。

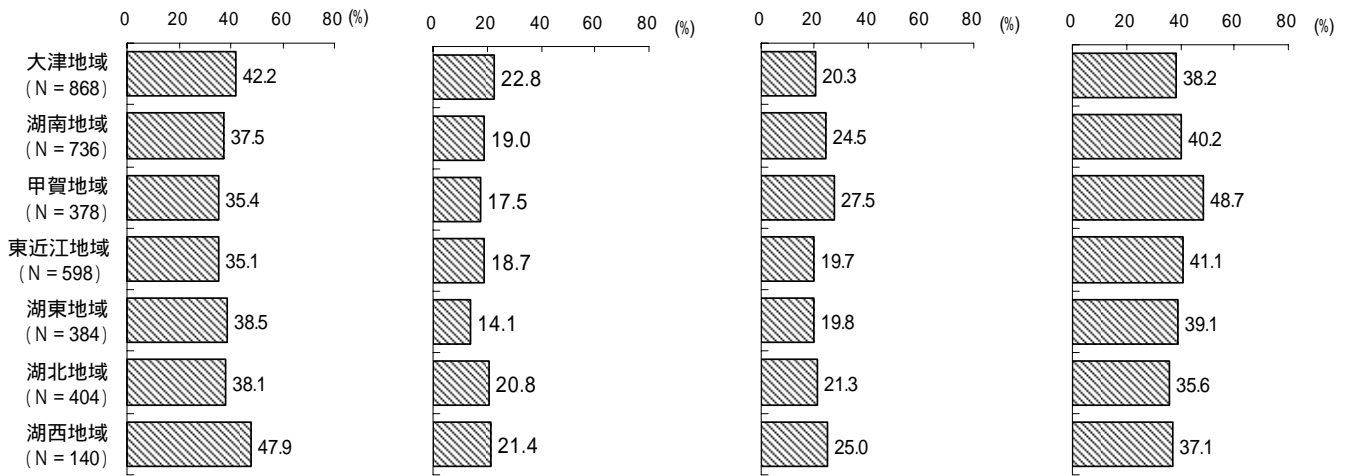
また「森林への被害が著しい野生鳥獣（シカ、カワウなど）に対して、森林を守るための施策」では湖西地域で 35.0%と他の地域に比べ高くなっている。

針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな森林へ導くための環境林整備や、森林吸収源対策としての手入れ不足の人工林に対する間伐の実施

水源かん養機能を高めるため、伐採年齢を70～80年に延ばす長伐期林への誘導

再生可能な地域資源であり、二酸化炭素の固定による地球温暖化防止のための県産材の利用拡大や搬出路の整備

県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ

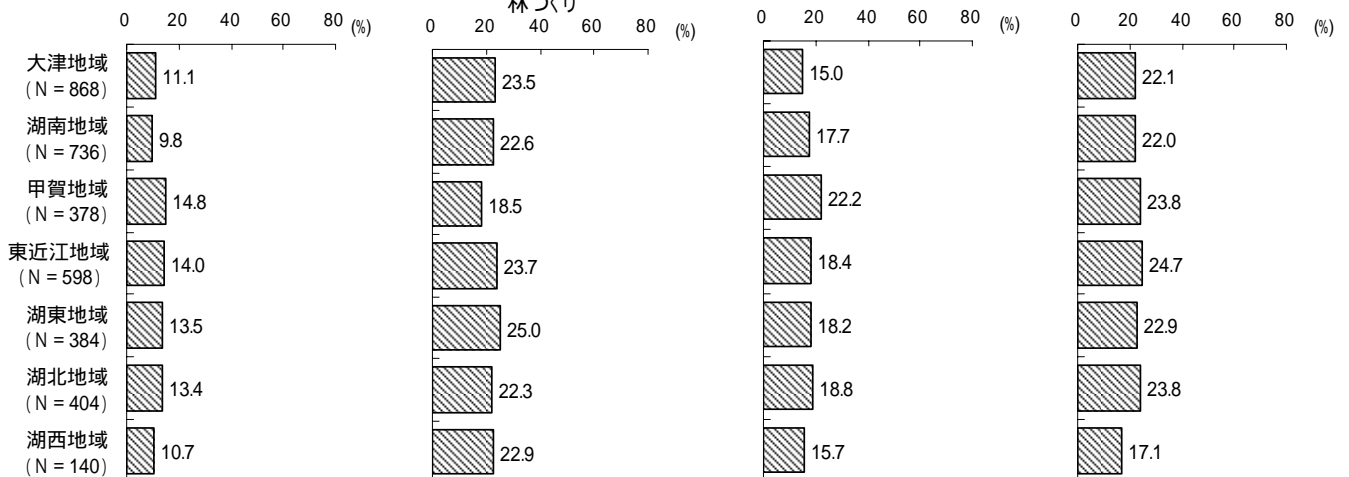


森林の価値や森林づくりの意義などを説明し、森林づくりへの関心や参加を促す活動

NPOやボランティアなど県民による森林づくり活動への支援や、県民が森林づくり施策に参画できる仕組みづくりなど、県民協働による森林づくり

木の温もりや良さを体感する機会を県民の皆さんに提供したり、PRする活動

次代の森林を支える青少年を育成するための森林環境学習

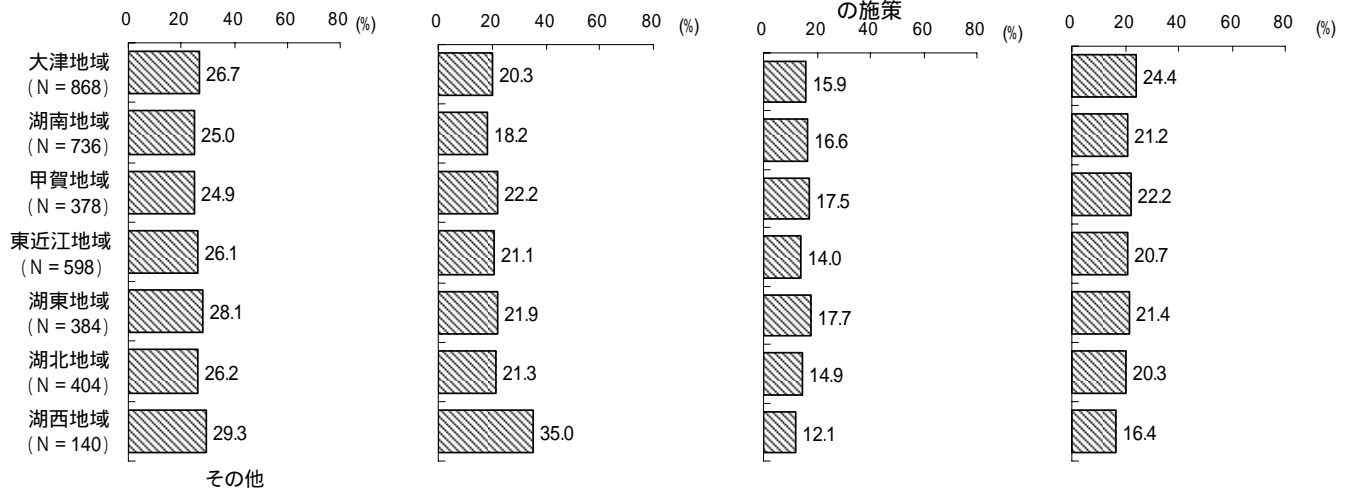


森林づくりの担い手としての
森林所有者、後継者、森林組合
従事者の育成、確保

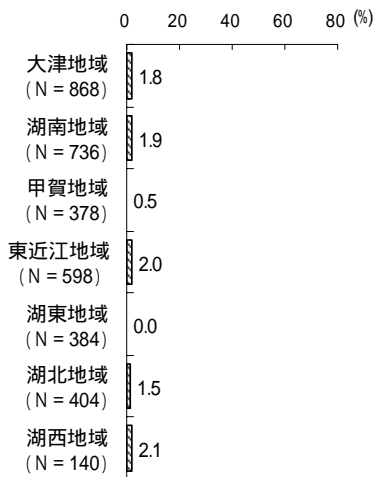
森林への被害が著しい野生
鳥獣(シカ、カワウなど)に
対して、森林を守るための施策

滋賀県人工林面積の約1/3を占
める県、市町、造林公社等が管理
している公的な森林に対する地
球温暖化防止や水源かん養等公
益的機能を維持増進を図るため
の施策

バイオマス利用をはじめ技術
開発などによる森林資源の
新しい活用

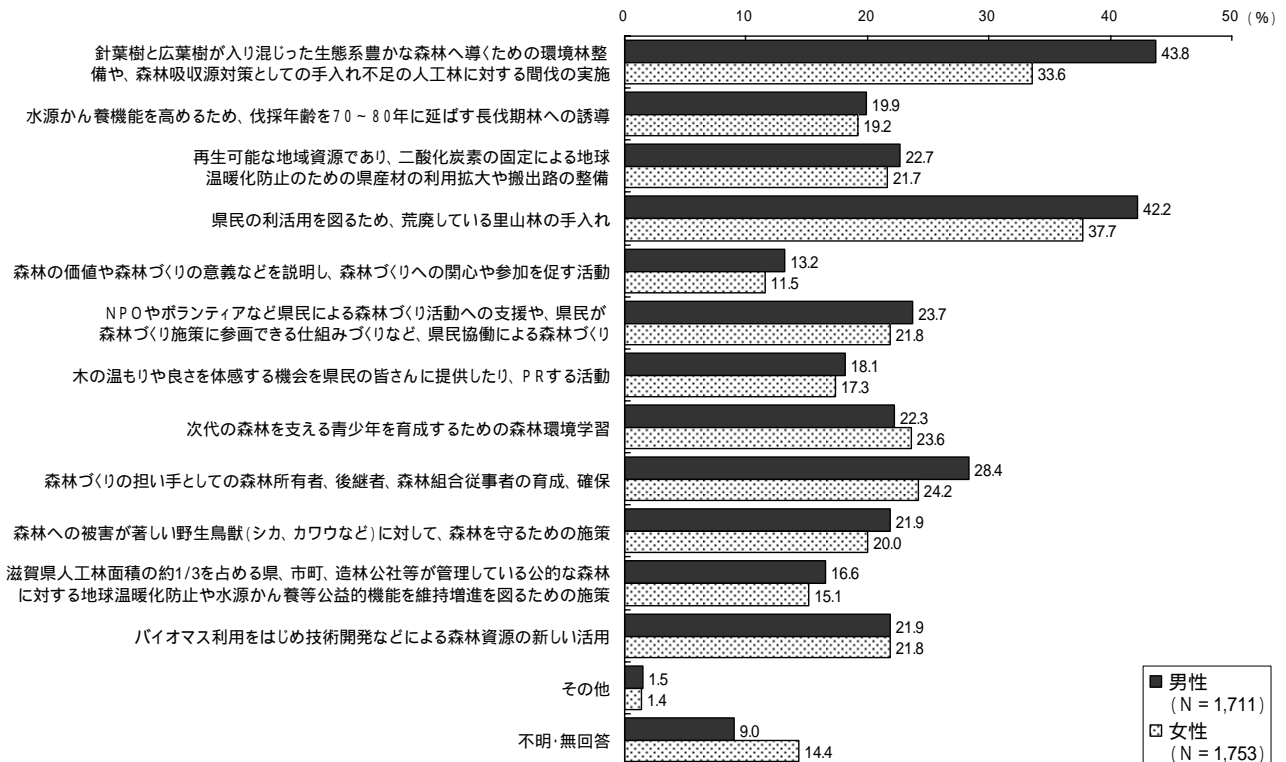


その他



【性別】

男性では「針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな森林へ導くための環境林整備や、森林吸収源対策としての手入れ不足の人工林に対する間伐の実施」が最も高く、女性より10.2ポイント上回っている。女性では「県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ」が最も高く37.7%となっている。



【性・年代別】

男性の40歳以上、女性の20歳代では「針葉樹と広葉樹が入り混じった生態系豊かな森林へ導くための環境林整備や、森林吸収源対策としての手入れ不足の人工林に対する間伐の実施」が最も高く、なかでも男性の60歳代の50.2%が高くなっている。男女ともにその他の年代では「県民の利活用を図るため、荒廃している里山林の手入れ」が最も高く、いずれも35.0%を超えている。